

種類

小松菜、水菜、壬生菜、高菜、からし菜、ベカナ、シロナ、青梗菜、タアサイ、ナバナ、コウサイタイ、サイシン・・・挙げればきりが無いほど数があり、漬物、和え物、炒め物などには欠かせません。また、地方色豊かな葉菜が多く全国的にはそれほど知られていない野菜も数多くあります。これらの共通点は非結球のアブラナ科であることです。同じグループは同じような性質を持ち(特に温度特性)、同じような虫がつかます。したがって、小松菜が上手に栽培できれば、水菜だって、青梗菜だって、同じような考えで栽培できるので、これらを一括してわれわれはツケナ類として分類しています。

非結球アブラナ科について

シードバーナリーという温度特性を共通に持ちます。発芽直後の低温によってその後の成長が大きく左右されるのです。具体的には10℃以下の温度に長時間さらされると、すでに冬だと思い、春の準備すなわち花を咲かせようと成長が変化するので。花芽ができてトウが立ちだすと、もう茎葉には養分が配分されなくなり食用には適さないくらい硬く老化して

漬け菜(ツケナ)の栽培法

2011/10/14

きます。つまり、ツケナ類はトウ立ちという宿命を避けながら栽培することが最大のポイントといえるのです。当地佐世保ではさくらの開花時期から、稲刈り位までの時期が露地の最適播種期となります。

施肥

同じアブラナ科のハクサイのように結球させる必要がないので、適温下で1~1.5ヶ月くらいで急激に肥大して収穫ができます。追肥では間に合いませんので元肥一本で行きます。1㎡あたり、完熟堆肥2Kgを1ヵ月~半月まえに前面にふって耕やしておきます。1週間前、苦土石灰200g、直前に窒素10%前後の配合肥料約150g~200gを施し、耕起整地しておきます。

種まき

1~1.5m位の畦として3~5条のすじまきとする(図では1.2mの3条植え)。ツケナ類は青梗菜や大株の高菜や水菜などの最終株間が10~20cmで50株/㎡以下。

小松菜、サラダ水菜、シロナ、若どり高菜などはハウレンソウと同じ位で最終株間が5cm位で100株/㎡前後です。数ミリ~1cm位の間隔でやや多めにスジ蒔きし、間引きしながら、最終株間とします。

間引き

ふつう3回位間引きしてこみ合ったところをすかします。1回目は本葉2枚の頃葉と葉がふれ合わない程度に、2回目は本葉4枚のころ同じように間引きます。3回目は本葉5~6枚のころそれぞれの種類に適した間隔で間引いていきます。乾燥を嫌うので乾きすぎるようであれば灌水する。間引きのつど中耕と土寄せを行うとよいです。

日本種苗協会長崎県支部/市川種苗店
※一部又は全部の引用を禁止いたします

